



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

ソロモン諸島

— 2021年度 地域巡回機能回復等支援事業 —
(終了時評価—2022年4月)

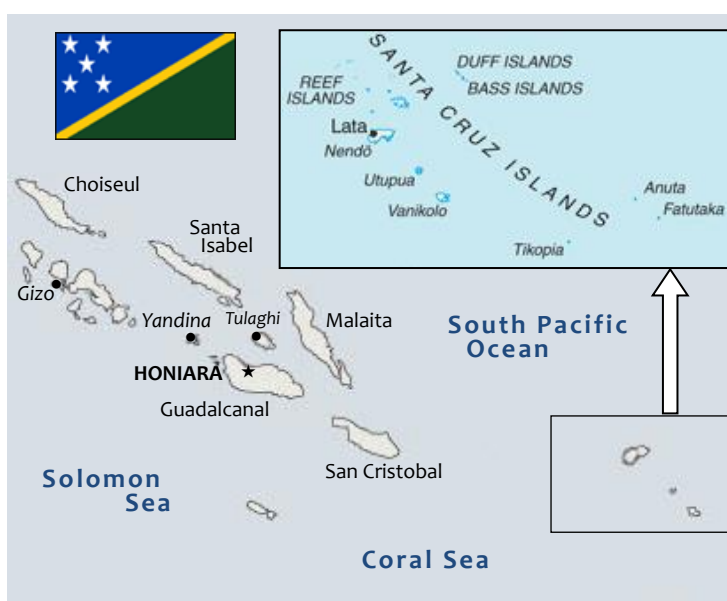
プロジェクトの概要

国名	ソロモン諸島
プロジェクト名	2021年度 FDAPIN VIIプロジェクト
実施期間	2021年8月5日(覚書署名)～2022年3月31日
覚書署名省庁名 及び 事業実施機関	覚書署名省庁：漁業海洋資源省 (MFMR : Ministry of Fisheries and Marine Resources) 実施機関：漁業海洋資源省

プロジェクト実施の経緯と背景

ソロモン諸島(以下「ソロモン」という。)政府漁業海洋資源省(Ministry of Fisheries and Marine Resources、以下「MFMR」という。)は、Corporate Plan 2020-2023 を発表した。そこに「Promoting Community Fisheries Centres (CFCs) as a platform for livelihood diversification for small scale fisheries」(小規模漁業者の生計多様化のためプラットフォームとしてコミュニティ漁業センターを推進する)との記述がある。

このような計画の下、MFMR は各種の漁業振興計画を実施してい



るが、同国の水産関連施設は老朽化に伴う故障や運営管理の不備により、本来の機能を発揮することができず、漁業振興計画の推進に大きな支障を来している。

このため、ソロモン政府は、公益財団法人海外漁業協力財団（以下「財団」という。）に対し、水産関連施設等の修理・修復及び現地技術者への技術移転並びに関連組織への指導・助言についての要請を行った。

財団は我が国とソロモンとの漁業関係の重要性を踏まえ、同国政府の漁業振興策を支援するため、本プロジェクトを実施する方針を決定した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産性が向上し、小規模漁業が発展する。
プロジェクト目標	水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。
成 果	<p>① マルー漁業センターの修理・修復及び技術指導</p> <p>ソロモン政府の予算不足により、MFMR は資機材をマルーに輸送できなかった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による渡航規制により専門家を派遣することができなかったものの、次年度以降、資機材の現地着と同時に速やかに事業を開始・完了できるように、電話やメール等のツールを併用して、現場での活動に必要な準備に係る技術指導を遠隔で実施した。</p> <p>カウンターパートのみで修理・修復作業をする場合における資機材の管理や作業記録の方法について、カウンターパートの知識・技術が向上した。</p> <p>② ツラギ漁業センターの修理・修復及び技術指導</p> <p>ソロモン政府の予算不足により、MFMR は資機材をツラギに輸送できなかった。成果については上述①マルー案件と同じ。</p>
活 動	<p>① マルー漁業センターの修理・修復及び技術指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全資機材のリスト（用途及び写真を含む）を作成・送付し、各資機材の用途を説明した。 ・設置予定であったブロック型製氷機の設置マニュアルを作成・送付し、設置作業のイメージトレーニングを行った。 ・カウンターパート及び専門家が報告書を作成するためには、現場写真を含む詳細な作業日誌が不可欠であることから、その重要性を説明しつつ作成方法を指導した。 <p>（参考）予定していた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーフリーザー（500L）2台の設置及び試運転 ・23 フィート FRP 船の使用上の注意の説明 ・40 馬力船外機の定期メンテナンスの指導 ・上記の作業に必要な技術的指導 <p>② ツラギ漁業センターの修理・修復及び技術指導</p> <p>①に同じ。</p> <p>（参考）予定していた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック型製氷機と発電機の交換・設置と配線及び試運転

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 40馬力船外機の定期メンテナンスの指導 ・ 上記の作業に必要な技術的指導
投 入	<p>財団側</p> <p>1) 専門家 計画 第1回巡回指導：チームリーダー／冷凍機器、漁船機関専門家、冷凍機器専門家 2021年9月上旬～12月下旬（約115日間） 第2回巡回指導：チームリーダー／冷凍機器、漁船機関専門家、冷凍機器専門家 2022年1月中旬～2022年3月下旬（約80日間）</p> <p>実績 第1回巡回指導：チームリーダー／冷凍機器、漁船機関専門家、冷凍機器専門家 2021年11月1日～12月28日（58日） 第2回巡回指導：チームリーダー／冷凍機器、漁船機関専門家、冷凍機器専門家 2022年1月4日～3月31日（87日）</p> <p>延日数 計画 390人日 実績 290人日（計画対比：74%） （注：派遣人日数の実績には、本邦でのマニュアル作成やチーム内でのオンライン打合せ、カウンターパートとの連絡等に費やされた日数が含まれる。また、専門家2名がソロモン、PNG、ツバル及びフィジーを対象とした遠隔での技術指導等を併行して行った期間となっている。）</p> <p>2) 主な資機材 ブロック型製氷機（24缶）2台、発電機（20KVA）2台、2ストローク船外機（40馬力）2台、FRP船（23フィート）1隻、ソーラーフリーザー（500L）2台</p> <p>相手国側</p> <p>1) 主なカウンターパート Principal Fisheries Officer, MFMR</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等 なし</p>

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、MFMR が策定した Corporate Plan 2020-2023 等に基づく漁業振興策に合致した事業内容であり、妥当と判断される。

2. 協力ニーズ（対象国、対象地域）との整合性

ソロモン政府から、水産関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術移転並びに関連組織への指導・助言を要請されており、事前調査においてマルー漁業センター及びツラギ漁業センターの修理・修復及び技術指導並びに MFMR ワークショップの機能拡充に対する協力ニーズが高いことが確認されている。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はなく、冷媒、廃棄部品等の扱いについては、適切な回収装置を用いるなど、常に環境保全に配慮している。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設の機能回復を図り、その運営・管理に対する助言を行うものである。その結果、現地零細漁業者の漁業活動が活発になることが想定されるが、零細漁業の漁獲圧力は限定的であり、水産資源への負荷を著しく増大するものではない。

5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

新型コロナウイルス感染症の影響で専門家を現地へ派遣できなかった。

◆ 効 率 性

1. 事業費及び実施期間

事業費については、予算を若干オーバーしており、また、事業を予定どおり実施できなかったことから必ずしも効率的とはいえない。

一方、実施期間については、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で専門家を現地へ派遣できず、リモートで技術指導を実施したため、リモート指導に必要な資料に多くの時間を要した。なお、専門家が複数国を対象として遠隔指導・対面指導等を併行して行うことを算定しているという特殊事情に鑑み、本項目は評価が困難と認められることから評価はしない。

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を發揮していたか

資機材及び専門家は、タイミングよく投入され、プロジェクト活動は遠隔で実施したものの、後述の通り、予定していた技術指導のすべてを対象年度内に完了させることができなかった。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

移転技術は、専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による渡航制限により、技術指導はメール等の手段を用いて遠隔で対応した。

資機材は予定通りホニアラ港に到着していたが、ソロモン政府は国内輸送費を確保することができず、資機材を各サイトに輸送することができなかったことから、両案件とも技術移転は次年度以降に実施すべきと判断し、覚書の変更手続きをもって資機材購送のみを実施した。

なお、当該資機材は、専門家の指示があるまで適切に保管するよう指導した。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

①プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：水産関連施設が修理・修復され、当該施設の維持・管理に係る技術が向上する

両漁業センターの機能を計画どおり回復させることはできなかったが、可能な範囲で最大限の技術移転が行われ、技術指導を実施できた内容についてはカウンターパートの知識及び技術レベルが向上したことからプロジェクト目標は一定程度達成されたといえる。

②その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

ソロモン政府が国内輸送費を確保することができなかったことから、プロジェクトサイトに資機材を輸送することができず、技術指導を実施することができなかった。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

<活動項目>

① マルー漁業センターの技術指導（マルー漁業センターの修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。）

主要な活動項目であったブロック型製氷機及びソーラーフリーザーの設置並びに船外機船の導入等に係る技術指導は中止せざるを得なかったが、資機材の適正な保管については指導することができた。

② ツラギ漁業センターの修理・修復及び技術指導

（ツラギ漁業センターの修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。）

主要な活動項目であったブロック型製氷機の設置及び船外機船の導入等に係る技術指導は中止せざるを得なかったが、資機材の適正な保管については指導することができた。

◆ インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

ソロモン側の責任で行うべき資機材の国内輸送が実施されず、案件を実施できなかったことから、本項目は評価が困難と認められ評価はしない。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

ソロモン側の責任で行うべき資機材の国内輸送が実施されず、案件を実施できなかったことから、本項目は評価が困難と認められ評価はしない。

3. その他（ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは水産局の職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担

当する予定である。

供与された資機材は、製氷施設の稼働並びに運営・管理に必要なものであり、適切な保管に関しプロジェクトを通じて技術指導を実施したことから、プロジェクト終了後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

各漁業センターの機械類に異常が発生した際には、MFMR のカウンターパートが州政府の予算で修理のために現地に出張し修理する体制が整っていることから、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込みである。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上